



～参加しやすく 参加したくなる 質の高い勉強会を目指して～

全体テーマ

『脳卒中片麻痺患者の歩行再建における装具療法の可能性を探る』

期日：平成30年9月16日（日） 10:00～16:00（受付9:30～）

会場：福岡医療専門学校（福岡県福岡市早良区祖原3-1）

会費：¥4,500

◆ 10:00～12:00

【講演1】 歩行再建に向けた積極的装具療法の展開

講師：増田 知子 先生（千里リハビリテーション病院）

～Abstract～

ここで示す「装具療法」とは、即時効果を得るための使用に留まらず、効果・効率の向上を目的に、ツールとして装具を活用しながら治療的介入を行うことを表す。脳卒中片麻痺者のリハビリテーションにおいて、歩行の再建は命題の1つである。その達成のためには、発症後から回復の段階や生活基盤に対応して装具の「使い方」をアレンジし続ける必要がある。戦略とも言えるその「使い方」においては、装具が持つ特性の理解や装具装着下での介助歩行のスキルアップ、装具使用効果の判定、カットダウンあるいは作り替えの判断などが不可欠である。これらについて学びながら積極的に歩行再建を目指す方策について考えたい。

◆ 13:00～14:00

【講演2】 装具歩行のバイオメカニクス

講師：大田 瑞穂 先生（誠愛リハビリテーション病院）

～Abstract～

脳卒中片麻痺者に提供する短下肢装具は、一般的に足部・足関節の機能を運動力学的に補助する道具である。歩行時におけるHeel RockerやAnkle Rocker, ForeFoot Rockerの機能特性と重要性に関して、理学療法士にとってはスタンダードセオリーとなっているが、これらのRocker Functionと上位にある膝関節・股関節・体幹などの運動が連動してこそ歩行機能に対して正の働きとなることを忘れてはならない。本講演では足部・足関節および短下肢装具によるRocker Functionと上位関節運動がおりなす歩行特性について、バイオメカニクス観点から解説する。加えて、長下肢装具を用いた歩行のバイオメカニクスに関して股関節機能への影響を踏まえて紹介する。

◆ 14:10～15:10

【講演3】 装具を使用した歩行を維持する連携・教育システムの構築

講師：遠藤 正英 先生（桜十字福岡病院）

～Abstract～

脳卒中片麻痺患者において下肢装具を使用することは重要であり、多くの施設においてその使用がなされている。しかし下肢装具はただ使用すればよいというわけではなく、正しく使用されなければその効果を発揮することはできない。そのため下肢装具を使用するセラピストが装具の使い方を正しく理解するための教育体制の確立と、退院後のフォローアップを考慮して、地域で患者を守ることができるような仕組みが必要である。今回、上記2つに対する我々の取り組みや経験を紹介・解説することで、一助となればと考えている。

◆ 15:10～16:00

全体討議

【季刊 脳卒中リハビリテーション】

増田先生が編集されました第2号【歩行と装具】が平成30年8月に発刊予定となっております。大田先生、遠藤先生が分担執筆をされています。

今回のRestaにおいて、本書の内容がより深く理解できるような趣旨を含めての開催を企画しています。ぜひこの機会をご活用して頂ければ幸いです。



【申込み方法】平成29年12月からホームページをリニューアルし、研修会の申し込みが簡便になりました。

「NPO法人FSA」のホームページより「Resta研修会」の申し込みが可能です。

右記のQRコードからホームページをご確認いただき、必要事項の入力をお願い致します。

その後、受付完了メールを送信させていただきます。

E-Mail: resta_fukuoka@yahoo.co.jp

